

2022年10月22日読書会用

第313回山口西田読書会（2022年10月8日開催分）プロトコル

佐野之人記

今回はエクスクルス（番外編）として「独我論からの脱却」の第二回（斜体字は佐野の付加）。

1. テキスト5頁の6『善の研究』第三編末尾を講読。ここでは「最深なる要求（至誠）」と「最大なる目的」の「一致」が「完全なる善行」とされ、それは「真の自己を知る」ことに尽きるとされている。『倫理学草案第二』では「至誠」のみが「道徳の極致」とされ、しかも最後に「或人は至誠にて悪事をなすことなきや」とあり、「至誠」と「最大なる目的」との一致が疑われているかのようであった。『善の研究』では『倫理学草案第一』同様、一致は疑われていない。これをどう考えるか。またもしこうした「完全なる善行」が可能であれば、「我々の自己がその相対的にして有限なることを覚知」しなければならないとされるような第四編「宗教」における「宗教的要求」が起こりようはないことが指摘された。そうであれば第三編末尾と第四編始めの関係（間）はどうなっているのか、が問題となる。
2. テキスト6頁の7『善の研究』第四編「宗教」より、その冒頭部分「第一章 宗教的要求」を講読。宗教的要求の出所が問題となった。「自己に対する要求」は何が「自己」に対して要求しているのか。また「大なる生命の要求」「厳粛なる意志の要求」における「の」は「が要求する」のか、それとも「を要求する」のか。『倫理学草案第二』では「宗教的要求」の出処は「吾人」であった。その際この「吾人」が「知意」の主体か、その根底を含めた「自己」かが問題となった。

今回はテキスト6頁末の「第二章 宗教の本質」より。